

## 椰子の木

校長 新妻 茂

「あっ、椰子の木がない！」

8月29日に登校してきた生徒の中には、びっくりした人もいたのではないのでしょうか。

前庭に車いすでの通行を容易にするために幅1m20cmの舗道を設置する工事にあたり、8月1日にやむを得ず撤去されました。

少なくとも30年以上にわたって小笠原中学校の生徒を見守ってきた、言わば本校のシンボリック的存在でもある椰子の木でした。撤去するにあたっては、植えられたであろうその当時の人々に、植えられた経緯や撤去してもいいものなのかということを経験や建設水道課で聞いていただいたそうです。しかし、はっきりしたことはわからなかったそうです。

学校に残っている様々な資料を調べてみましたが、いつごろ植えられたのか記録には残っていませんでした。過去の学校要覧の写真等も調べてみましたが、はっきりしたことはわかりませんでした。

校長室に第2代と4代の校長をされていた藤木資洋先生が前庭から見た中学校校舎と小学校校舎を描いた絵が飾ってあります。体育館がシートで覆われているので体育館竣工前(体育館の竣工は昭和52年です。)の絵だと思われます。その絵に前庭の植栽が描かれていますが、7月までであった場所に椰子の木の姿は見えません。

昭和53年に本校は開校10周年を迎えましたが、その時に現在の校歌が制定され発表会が行われました。作詞は校歌制定委員会とされていますが、その2番の冒頭に「椰子橄欖(やしかんらん)の香に匂う」という一節があります。「橄欖」という言葉を広辞苑で調べてみました。「カンラン科の常緑高木。熱帯原産。等々」と書かれていました。つまり、椰子と橄欖はまったく別の植物だということがわかります。当時、椰子と橄欖があったということなのでしょうか。あるいは、その歌詞に沿って制定前後に7月までであった場所に椰子が移植されたのでしょうか。事実は定かではありません。

本校は来年開校50周年を迎えますが、歴史や事実を継承することの難しさを、私は改めて「椰子の木」を通じて感じさせられました。また私は、車いすを使う児童・生徒が伸び伸びと学校生活を送れることが「椰子の木」にとっての本望だと確信しています。



平成29年7月28日 副校長撮影

## 9月の主な行事予定

2日(土) 海洋センターボランティア	20日(水) 食育 芝生の日
4日(月) 始業式	22日(金) 島しょ研修会1日目
5日(火) 学習面談(始)	23日(土) 島しょ研修会2日目
6日(水) 芝生の日	24日(日) ブイフロート清掃
8日(金) 1年東平外来種駆除活動	25日(月) 生徒会役員選挙
9日(土) 2年硫黄島訪島事業 10日まで	26日(火) 連合運動会予行
11日(月) 2年振替休業日 学習面談(終)	27日(水) 振替休業日
12日(火) 保健面談(始)	30日(土) 運動会準備
	※ 10月1日(日) 連合運動会
	10月2日、3日振替休業日

## 部活動 遠征報告

### バレー部

島しょ大会に向けて卒業生や地域の方々に練習試合をしていただいたり、村の大会では大きな声援を送っていただいたり、多くの方々に応援されながら島嶼大会優勝の目標を胸に遠征へ出発しました。

内地では、杉並区立松ノ木中学校、品川区立品川学園、東京立正中学校にご協力いただき、練習や練習試合をさせていただきました。

大会当日も、保護者の方を始めとして、大勢の方が応援に駆けつけてくださりました。初戦は対八丈合同チームでした。選手は応援に応えようと一生懸命がんばりましたが、緊張で思うようにプレーができず、0-2 (12-25、17-25) でした。つづけて2試合目があり、三宅中学校と対戦しました。気持ちを切り替え、練習してきたプレーを存分に発揮することができ、2-0 (25-11、25-11) で勝利しました。3試合目は新島中学校と対戦しました。1セット目の前半は新島が流れにのり、11-19まで点差が離れました。しかし、諦めることなく粘り強くボールを繋ぎ、強気で攻め、全員で声を出し、追いついてリードすることができました。小笠原は勢いがありましたが、惜しくも25-27でセットをとられました。2セット目は、新島のサーブを攻略することができず、13-25で敗れ、島嶼大会での結果は1勝2敗の3位でした。悔しさはありましたが、島嶼大会の翌日は再び品川学園を訪問し、応援していただいたお礼と新チームに向けて練習に参加させていただきました。

この1年間、島嶼大会で優勝することを目標に掲げ、本気で練習し、チームがひとつとなって強く上手くなるためにはどうすればよいか何度も話し合いました。チームで同じ目標に向かって本気で努力した1年間はかけがえのない経験となりました。また、来年の島嶼大会にむけてチーム一丸となり頑張ります。

バレー部の活動にいつもご協力いただき、支えていただきありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。引き続きご協力よろしくおねがいいたします。

### サッカー部

今回の内地遠征は3年生3人、1年生7人と母島中学校の部員を含めて計10人での遠征となりました。人数が少ないこともあり、厳しい戦いになることが予想されました。しかし、大会のために村が主催してくださるサマートーナメントの中で、今回のチームには確かな力を感じました。それは人を感動させる力です。

初体験の11人制サッカーでコートも広く、ボールも大きい。何もかも初めての試合の中でも小さな体をフルに使って大の大人にぶつかっていく1年生。3人という少ない人数でも今回の最後の大会に向けて少しずつ積み上げて確実に成長してきた集大成の3年生。そんな10人の活躍を期待せずにはられませんでしたが、しかし現実には厳しいものでした。

1回戦は神津中学校と対戦し0-3で敗戦。最も感じたのは公式戦に対する「堅さ」でした。特に1年生は緊張で体が重く、普段通りのプレーができたとは言いがたいものでした。後半は体もほぐれて良いプレーが出てきましたが勝負の世界は厳しく、悔し涙を飲みました。都大会出場を目標にしていた生徒達の気落ちは大きかったです。2回戦は気持ちを切り替え、「応援して下さるたくさんの方達の想いを背負って戦う」ことをテーマに挑みました。その気持ちをチームで共有し、1回戦で全てを出し尽くして満身創痍の中でも走り続けました。試合の終盤では足が痙攣してしまう生徒も続出するなど、いかに限界の中で走っていたかがよく分かる試合でした。ボロボロになっても戦い続ける姿に、心を動かされた人は私だけではなかったと思います。

結果はPK戦までもつれ込みましたが、勝負は時の運。残念ながら勝利を収めることはできませんでした。今回の島嶼大会においては輝かしい「記録」とはなりませんでしたが、確実に見てくれた人の「記憶」には残ったことと思います。周りを感動させるパワーを持っていること。それを発揮するためには全力でなければいけないこと。勝利よりもかけがえのないものをたくさん得ることができた大会でした。生徒達には、今回の経験をぜひ自信に変えてこれからに活かして欲しいと思います。

最後に、ここまで有意義な遠征にできたことは、今回の島嶼大会だけでなく日頃からサッカー部の活動にご理解・ご協力をいただいた保護者の方々、村の方々のおかげです。関わって下さった全ての方に改めてお礼申し上げます。今後も小笠原中学校サッカー部を共に盛り上げていきましょう。よろしくおねがいいたします。



## バドミントン部

7月28日(金)に開催された第64回東京都バドミントン選手権大会に、ダブルスで出場しました。結果は0-2で1回戦敗退となりましたが、最後まで諦めずに挑戦しました。試合後は「力を発揮できなかった。」と後悔している様子でした。この気持ちを将来に活かし、今大会が良い経験であったと思える日がいつか来ることを期待しています。

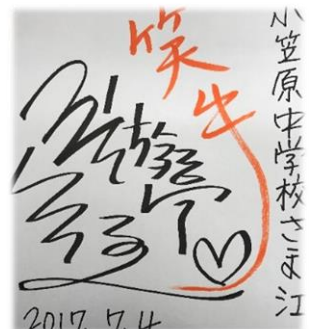
大会前は板橋区立赤塚第三中学校と板橋区立志村第四中学校の練習に参加させていただきました。内地ならではの気候に苦戦しながらも、大会に向けて一生懸命取り組みました。大勢で1つの目標に向かって団結することは、この地域ではなかなかできない貴重な経験だったと思います。これからの学校生活に活かしてほしいと思います。

今大会では、多くの保護者の皆様、小笠原中学校のOGの皆様に応援して頂きました。多大なるご協力とご声援をありがとうございました。

## 学校寄席 落語家 三遊亭美るくさん来校

7月4日(火)3校時、体育館で学校寄席が行われました。「落語」は江戸時代に生まれたもので、今でも数多くの噺が落語家さんたちによって、語り継がれています。使う道具は、扇子と手ぬぐいのみ。扇子を使って、筆や箸を表現していました。食べ物を食べる仕草を実際に見ると、割り箸を割る音も、扇子を使っていました。

難しい言葉もありましたが、全ての登場人物を、言葉だけで表現する話芸のすばらしさを、美るくさんの声や表情を通して想像しながら、噺を聞くことができました。なかなか触れる機会のない「落語」を、ここ小笠原で体験することができたことに感謝しています。



## 父母交流会

7月12日(水)に母島中学校の生徒の皆さんをお迎えして、父母学習交流会を行いました。

午前中は、学年ごとに授業を受けました。母島中学校の先生の授業が行われた教科もあり、普段とは雰囲気での授業に、緊張しながらも楽しそうに授業を受けていました。また、お弁当も母島中学校の生徒とともに楽しく食べることができました。

午後は、自衛隊の体育館で、スポーツ交流会としてホッケーを行いました。小笠原中学校の生徒と母島中学校の生徒が同じチームでプレーすることで、お互いの距離を一段と縮めることができていたように思います。

放課後は部活動交流を行いました。いつもと違うメンバーで、いつもはやらないような活動をした部もあり、充実した活動ができた様子でした。

母島中学校の生徒は、同じ村の中学生といっても、頻繁に会えるわけではない関係です。このような機会でも交流を深め、豊かな交友関係を築いてほしいと思います。

## セーフティ教室

7月15日(土)に小笠原警察署から署員の方が2名来校され、セーフティ教室を行いました。最近若者を狙った犯罪や、アルバイトを装って犯罪に利用される中学生が増えているということをご説明してくださいました。また、ドラッグの危険性についてもDVDを見ながら学ぶことができました。犯罪に巻き込まれないためには、どうしたらよいか普段の生活を見直すきっかけになったのではないかと思います。





## 1学期を振り返って・小笠原中学校での初めての夏休み（本年度赴任した教員より）

小笠原中学校での1学期が終わり、初めての島嶼大会ではとても悔しい思いをしました。今回の経験を糧に、これからサッカー部は生まれ変わります。真に強いチームとは何か。応援されるチームとは何かを追求し、次の大会では必ず良い結果を残します。そしてサッカー部を中心に、学校全体も更に充実したものに変わっていきよう2学期は更に力を入れて頑張ります。

小笠原中学校に赴任して早4ヶ月。沢山の生徒と関わり、あっという間に過ぎた1学期でした。今年の夏休みはバドミントン部を内地の学校での合同練習や都大会に連れて行きましたが、こんなに遠い距離での引率は初めてだったので、色々不安に思っていました。ただ、参加した生徒たちはとても良い顔をして活動していたので、連れて行ってよかったと感じました。この経験を小笠原中学校でも生かしてくれることを期待し、また2学期も頑張っていこうと思えた夏休みでした。

1学期を通して、今まで知らなかった新しい音とたくさん出会いました。海の音、船の音、ヤモリの鳴き声、鳥の鳴き声。そして、小笠原で、新しい言葉ともたくさん出会いました。1年生は詩、2年生は短歌、3年生は俳句の作成を行いました。どの学年も個性豊かで、小笠原らしい言葉に触れることができました。2学期も、もっとたくさんの音や言葉との出会いを大切に過ごしていきたいです。

着任後、すぐに健康診断からスタートした父島での生活。そして修学旅行と母島移動教室を終え、遠泳大会・・・と夏休みまで、あっという間でした。提出書類や健康観察など、様々な面で、ご協力ありがとうございました。

生活の方も、少しずつ島の生活に慣れ、休日には海や空を見に行くことが多くなりました。毎日違う色を見せてくれる海と空を見ながら自転車に乗って通勤するのもお気に入りです。

日に日に日焼けしていく元気な子供たちの様子を見ながら夏休みを迎え、私もリフレッシュさせていただきました。2学期も頑張ります。引き続き、よろしくお願いたします。

小笠原に来て1学期が終わりました。とびうお棧橋のサメとエイに魅了され、海の蒼さと星空に感動しています。小笠原にきて自然の美しさに勝るものは無いのだな…ということがわかりました。

さて、2学期、運動会、学習発表会等皆さんが活躍できる場面がたくさんあります。皆さんの一生懸命な姿、思いやりのある言葉をたくさん聞き、一緒に感動したいと思います。

### 保護者・地域の皆様へ

#### ～小中高連合運動会について～

10月1日(日)に小中高連合運動会が行われます。練習もこれからは本番となります。熱中症やけがなど、十分に注意しながら進めて参りますが、ご家庭でもご配慮いただけますよう、よろしくお願い致します。当日の開始時間等、詳細につきましては、後日プリントでお知らせ致します。また、リレーや綱引き等、村民の皆様に参加していただく種目につきましては、『村民だより・9月号』で申込締め切りなどもご確認ください。